

□□□ 学校アンケートへのご協力 ありがとうございます □□□

本校では、生徒の皆さんや保護者の方々からアンケートにお答えいただき、教師自身が自己を振り返るとともに、学校教育の一年間の反省や次年度への方向性を考えさせていただいております。本年度も、「学校づくりビジョン」で学校教育目標や具体的な重点目標をお知らせし、教育活動に取り組んで参りました。それぞれの結果を踏まえて改善すべき点をはっきりさせ、次年度への教育活動に生かしていこうと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成28年度の西陵中学校についてのアンケート結果から比較的评价の高かった項目は、生徒・保護者でそれぞれ次のようになりました。

- | | | |
|-----|-------------|-----|
| 生徒 | ①キャリア教育の推進 | 95% |
| | ②道徳・人権教育の充実 | 95% |
| | ③情報の発信・受信 | 94% |
| 保護者 | ①情報の発信・受信 | 92% |
| | ②危機管理体制 | 91% |
| | ③キャリア教育の推進 | 90% |

(「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合の数字の上で高かった上位3項目)

一方、評価の低かった項目は、以下のようになりました。

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 生徒 | ①部活動の充実(78%) |
| | ②学校教育目標実現に向けた努力 ②充実した学校生活 ②仲間づくり(89%) |
| 保護者 | ①教育相談(72%) ②部活動の充実(74%) |
| | ③仲間づくり ③生徒指導上の問題への対応(79%) |

(「そう思う」「だいたいそう思う」の合計の割合の数字の上で低かった下位4項目)

上位3項目、下位4項目を挙げましたが、生徒については、ほとんどの項目で約90%以上となっています。また、保護者については、すべての項目で昨年度より上回った評価をいただき、「道徳・人権教育の充実」に関しましては16ポイント増加しています。

この結果から、生徒が学校生活全般に対して、意欲的に取り組んでいることがうかがえ、教師と生徒が良好な関係を築けていると考えられます。特に、「キャリア教育の推進」(95%)、「道徳・人権教育の充実」(95%)、「情報の発信・受信」(94%)、「危機管理体制」(93%)、「適切な評価」(91%)、「わかる授業」・「生徒指導上の問題への対応」・「教育相談」(90%)の結果から、生徒は安心して学校生活を送っていると考えられます。

「確かな学力・主体的に生きる力の育成」に関しては、「基礎・基本の定着をめざした授業づくり」を研修課題とした取り組みを5年間続け、今年度は「生徒の言語活動を大切にした授業による、より確かな学力を育むことをめざして」をサブテーマとし、生徒間の話し合い活動を中心に授業改革に取り組んできた結果、90%の生徒が肯定的な評価をしています。今年度より基礎学力の育成のために、1・2年生は短学活の時間帯で学力の向上を図ってきました。これらの取り組みにより、生徒が意欲的に学

習に取り組む姿や班内で活発に活動する姿が見られることから、教師や生徒がその成果を実感していることも高い評価につながっています。しかし、10%は分かりにくいと感じている生徒がおり、一人でも減らす工夫を意識した授業を考え、日々自身を振り返り、研鑽に励まなければなりません。学校全体で共通理解を図り、授業規律の確立を徹底させ、わかりやすい（わかる）授業づくりに取り組みます。また、家庭学習の充実をめざして、宿題の工夫と、家庭との連携を図っていきたいと考えます。

「適切な評価」については、生徒93%・保護者83%と高い評価を得ています。ここ数年、各教科のシラバスを生徒および保護者に示し、評価の観点および評価の方法を明確にしていることが評価につながっていると考えられます。定期テストや確認テストの点数や提出物だけではなく、毎時間の学習活動への参加状況や各單元における思考および技能や表現なども大切して生徒や保護者の方々が納得できるように取り組んできました。教師が一つひとつの教育活動に対し、評価の課程を具体的な説明責任が果たし、生徒が一層意欲的に取り組めるような授業の工夫と評価のあり方についてさらなる研修を深める必要があります。

「仲間づくり」に関して生徒89%・保護者79%が友達との関係は上手くいっていると考えています。しかし、生徒の約10%は友達関係に不安を持っています。今年度も、授業中だけでなく休憩時間や部活動の時間も、教師が生徒の目線に立ち、ふれあう時間を多く持つようにして生徒が安全で安心できる環境づくりをしてきました。これからも教育相談やQ Uの結果を検証し生徒の内面に迫る教育活動を続けていく必要があります。「教育相談」については昨年度より、生徒8ポイント・保護者4ポイント高くなっています。教師が生徒一人ひとりに行う定期的な教育相談が充実したことにより、生徒の考えや思いを知る機会が増えたことや友人関係などを知ることにより、いじめやトラブルの未然防止につながっています。

生徒一人ひとりが自分の思いを表現できる周囲の友達や、教師との関係作り、および、道徳教育や人権学習を中心として心の教育の推進をさらに充実したものにする必要があると考えています。また、不登校の生徒については、その要因も状況も一人ひとり違うことから、家庭訪問等により保護者とともに生徒に応じた対応を心がけ、教育支援課や「ふれあい教室」などの外部機関との連携により一人ひとりの自主・自立に向けての支援を心がけていきたいと考えています。

「危機管理体制」の項目では、やはり、生徒も保護者も意識や満足度は高いものの、日常の登下校の様子は、まだまだ改善の必要があります。本年度は、道路管理課の方の安全教室や校区防災・安全マップづくり、外部講師を招いてのネットモラル講座を行いました。さらに交通安全教室・安全集会、ネット、ケータイ、スマホの望ましい使い方の啓発など、生徒の意識改革を目指したなお一層の取組みが必要となります。常に原点に戻り、全職員が危機管理マニュアルを意識し、それに準じた対応を取れるよう努めなければなりません。また、学校の組織だった対応、職員間の連携、学校と保護者との意思の疎通等を行い、報告・連絡・相談の徹底等は必要不可欠のこととして、職員全員が共通認識を持たなければなりません。

本校の場合、強みとしては生徒が落ち着いていて学校の指導に対しても大半が満足している点、学校の取り組みに対しても好印象をもって受け入れている生徒が90%近くいる点、生徒が自分の将来に対して前向きに考えている点、人権意識が高い点、自分を大切に感じている点は大きな強みと言えます。

信頼のある学校づくりは、生徒や保護者はもとより地域との共働も大切です。教職員が生徒一人ひとりを理解し、保護者との信頼関係を構築しながら、地域の各行事に参加することにより、地域の皆様とつながりを強くし、地域とともに生徒の健やかな成長を支援していく必要があると考えています。引き続き一層のご理解とご協力をお願いします。